

敦煌壁画を見つめ直す

—莫高窟第 285 窟壁画の科学的復原研究— (敦煌科研 = 研究報告会)

日時：2014 年 2 月 19 日（水） 10 時—18 時（開場 9 時半）

場所：東京文化財研究所地下セミナー室

定員＝100 名（参加無料）

事前申込＝不要

東京文化財研究所は、1990 年以来、中国・敦煌研究院と敦煌壁画の保護に関する共同研究を実施してきました。

2006 年に始まる第 5 期共同研究、2011 年に始まる第 6 期共同研究では、壁画に用いられた材料と制作技法についての研究を西魏時代（6 世紀前半）の代表窟である莫高窟第 285 窟を対象として実施してきましたが、研究の進展に伴い、第 285 窟壁画の制作当初の彩色について、その材質と構造に対する劣化メカニズムを解明し、絵画作品としての復元的考察を試みようということになり、2010 年から 4 年間にわたり科学研究費（基盤研究 (B)）による研究「敦煌芸術の科学的復原研究—壁画材料の劣化メカニズムの解明によるアプローチ」（研究代表者：岡田健）を進めました。

本年度をもってこの科研が終了するにあたり、その概要を皆様に報告させていただくことにいたします。

本研究は、美術史学、文化財科学、文化財修復、建築環境工学、文化財情報学など多岐にわたる分野の専門家が参加したもので、単なる分析科学的な測定結果の提示ではなく、時間を経て劣化した絵画を当初の姿としてどう見るか、という文化財研究の本質的なあり方を示すものです。より多くの分野の方々にお聞きいただければと願っております。奮ってご参加ください。



第 285 窟南壁龕楣 正常光写真



同 紫外線照射写真



同 彩色復原模写（倉橋恵美画）

タイムテーブル

10:00 — 開会挨拶
岡田健（研究代表者・東京文化財研究所）

10:05 — 研究の概要—科学的復原研究と美術的視点
岡田健

10:20 — 基調講演：敦煌莫高窟壁画の劣化状態とその保存
蘇伯民（敦煌研究院）

セッションⅠ 敦煌莫高窟壁画の現状
—壁画はどのくらい見えなくなっているのか

11:00 — 第 285 窟壁画の劣化状態について
渡辺真樹子（東京文化財研究所）

11:30 — 第 285 窟環境シミュレーションによる劣化要因の考察
小椋大輔（京都大学）

12:00 — 昼食

セッションⅡ “絵”の復原—壁画材料と技法についての研究

13:30 — 第 285 窟壁画研究の経緯と本研究による新たな成果
岡田健

13:50 — 第 285 窟壁画の彩色の復原
高林弘実（京都市立芸術大学）

14:40 — 彩色の復原による第 285 窟壁画研究の新たな美術史的成果

1) 北壁と東壁の説法図壁画
石松日奈子（清泉女子大学）

2) 天井と四壁の境界に巡らされた禪定比丘群像
皿井舞（東京文化財研究所）

15:30 — 休憩

セッションⅢ 科学的復原研究の今後

15:50 — 研究を継続し発展させるためのデータベース
津村宏臣（同志社大学）

16:20 — 総括—第 285 窟壁画研究の成果と今後の課題
岡田健

質疑と討論

16:45 — 17:30

独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所

〒110-8713 東京都台東区上野公園 13-43
website : <http://www.tobunken.go.jp>

（担当：岡田健・保存修復科学センター長）
tel : 03-3823-2992
e-mail : kokada@tobunken.go.jp

